

そうちょう[®]

FREE

2022年3月号 発行：社会医療法人社幸会 行田総合病院

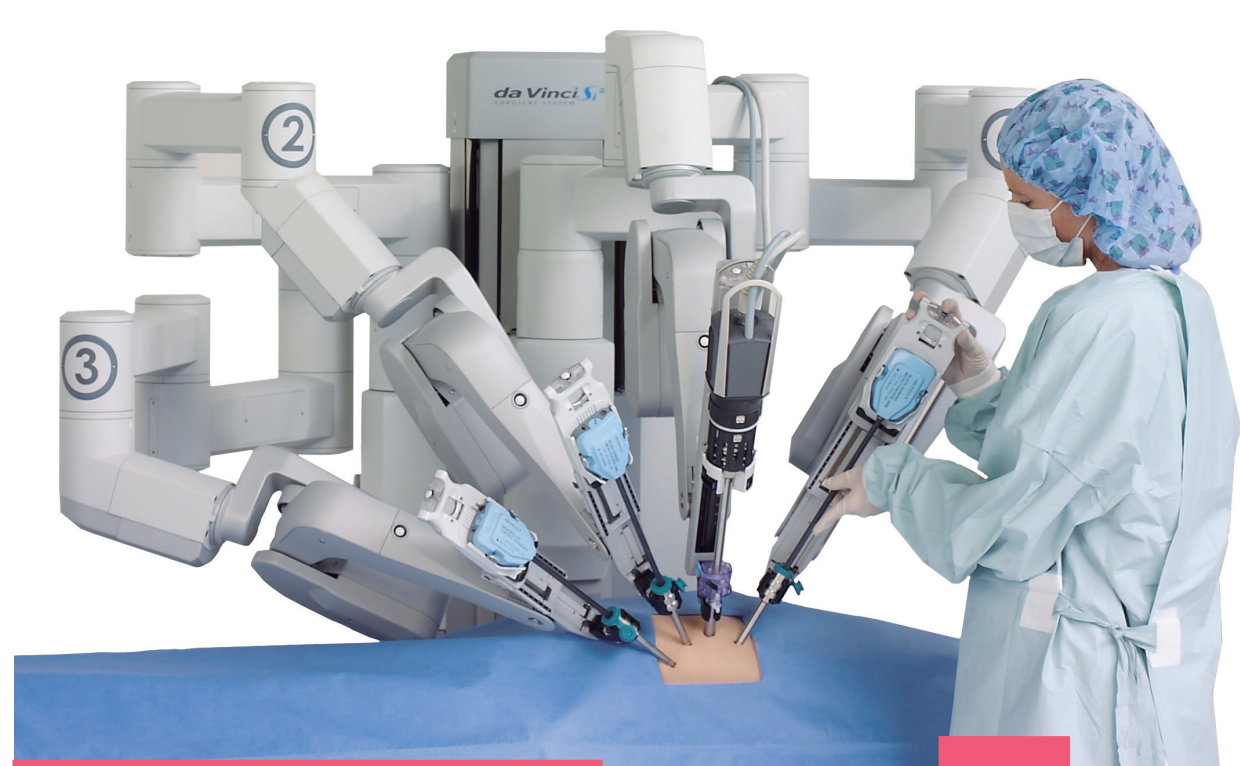


外科副部長
Dr. 野田

消化器外科

胃癌のロボット支援手術開始！





胃癌のロボット支援手術

トがあり、世界の先進各国で広く施行されています。

一方で曲がらない鉗子を使用して手術を行うため人間の手の関節可動域の広さに劣り、それを補うための無理な操作によって合併症が起ることも問題と考えられてきました。

ロボットの操作アーム（鉗子）は、人間の手以上の関節可動域を持ち、非常に繊細な動きが可能で、手振れ補正機能も搭載されているため、術者の動きをより忠実に精密に伝えることができます。さらに遠近感を伴った3D（3次元立体映像）で10倍の拡大視野を得ることが可能になっています。

これらの機能により腹腔鏡手術や開腹手術に比べて非常に低侵襲で精密な手術を行うことができるようになりました。ロボット支援下胃切除術は2018年より保険収載となり、現在、施設基準を満たした施設では、保険適応の治療として積極的に行われています。

さらにロボット支援下胃切除術は腹腔鏡に比べ合併症が少なく、3年生存率も高いとの報告がなされ、今年度の保険診療点数が増加する見込みです。

つまり腹腔鏡手術よりも優れた手術であり、がんを治すという点でも、手術の安全面でも優れていると認められたことになります。

■2021年12月、第1症例。

行田総合病院・消化器外科は、胃癌に対してロボット支援下手術を開始いたしました。

第1症例として2021年12月に60代男性の胃癌の患者さんに対し、ロボット支援下幽門側胃切除術を施行しました。

今回施行した手術は、県北地域では初のロボット支援下胃切除術となります。

■第1症例までの道のり

2021年6月以降、ロボット支援下手術を行っている他施設（埼玉県立がんセンター、がん研究会有明病院など）を見学し、手術室ロボット胃切除チームとしてトレーニングとシミュレーションを重ねました。2021年12月に野田医師がロボット支援下手術術者資格を取得。当院における高難度新規医療技術評価委員会においてロボット支援下胃切除術が承認され、第1症例の施行に至りました。

■開腹・腹腔鏡手術との違いやメリット

腹腔鏡手術は、開腹手術に比べ出血量が少なく、拡大した画面でより繊細な切除を行うことができます。傷が小さく目立たないため美容的にも優れています。術後の痛みに関しても開腹手術より少なく早期回復が可能であり、傷の感染などのトラブルも少ないなど、大きなメリッ

■地域の皆様・開業医の先生方へ

これらの理由からロボット支援下胃切除術は標準治療となっていくことが確実であると学会ではいわれています。しかし、ロボットが高価であること、保険適応となるための術者基準や施設基準が厳しいことなどが影響し、まだ一部の病院でしか施行されておりません。

ロボット支援下手術を行っている病院では既に進行胃癌にまで適応を広げている病院もある一方、県北地域では未だに開腹手術をメインとして、腹腔鏡手術が一部で行われているに過ぎません。このように同じ胃癌に対する治療法が地域によって格差ができてしまう状況となっています。

現在、当地域の患者さんはロボット支援下手術を受けるためには埼玉や群馬のがんセンターや大病院まで行かなければなりません。比較的若年の患者さんはそれでよいかもしれませんが、高齢の患者さんは遠くの病院まで通院することは難しくなります。

日本胃癌学会はピロリ菌感染の急速な減少により、今後我が国における胃癌患者の減少が予想され、胃癌診療レベルを維持するためには、一定の施設集約化が必要であると考えられるとしています。このままでは症例の少ない病院が点在する県北地域では胃癌治療レベルの低下が



胃癌治療に対して
地域での第一選択になる。
そのためにぜひご協力ください。



外科副部長

野田和雅 KAZUMASA NODA

平成 11 年 佐賀医科大学卒
日本外科学会指導医・専門医
日本消化器外科学会指導医・専門医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本消化器病学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医
マンモグラフィ読影認定医

危惧されます。このような現状を鑑み、この地域で標準的な胃癌治療を安心して受けていただけるように、ロボット支援下胃切除術を開始しました。

当院ではこれまで泌尿器科領域において 2016 年、直腸癌に対しては 2019 年よりロボット支援下手術を行っており、病院としてのロボット支援下手術経験は大変豊富であり、今回の胃癌第 1 例目も安全に施行することができました（2 例目は本年 2 月 28 日に施行。術後の経過は良好です）。現在は導入時のため早期胃癌に適応症例を限定していますが、安全性を確保できた後は、進行胃癌にも適応症例を広げていく予定です。当科としてもチーム一丸となって施設基準を満たし、この地域でのロボット支援下胃癌手術を安定して行っていけるように努力してまいります。

■当院の胃癌治療体制について
当院の胃癌診療についてもお話しさせていただきます。

当院では私たち外科専門医のほかに、早期胃癌に対する内視鏡切除治療の専門医、抗癌剤治療の専門医（県北では唯一の常勤医師）、手術中や術後の抗癌剤治療の方針決定に重要な病理専門医が常勤しており、早期胃癌から進行癌、末期胃癌まで対応しており、専門的な胃癌治療をトータルで行うことが可能です。

術後のリハビリについても、大病院では別の病院に転院をする必要があることが多いのですが、当院では同院内で一定期間リハビリの継続が可能です。緩和ケアにおいては患者さんやご家族の希望に応じて地域の先生方と連携し、在宅緩和ケアから入院での看取りまで対応しています。また、総合病院であり、なおかつ救急指定病院でもあることから合併症の患者さんの対応も可能ですし、かかりつけの患者さんの緊急時の対応も 24 時間 365 日可能です。治療方針については患者さんやご家族の気持ちに寄り添った丁寧な説明となるように心がけており、希望があれば他院へのセカンドオピニオンも積極的に行っています。

最後に、今後この地域の胃癌治療の第一選択となるべく努力してまいりますので、皆様何卒よろしく願いいたします。